

みずのき美術館コレクション展 2024 「瓶と魚」

みずのき美術館では 20,000 点を越える絵画作品を所蔵しています。作品はいずれも、美術館の名前の由来にもなった障害者支援施設「みずのき」の絵画教室で制作されたもので、作り手はみずのきで暮らしてきた人たちです。当館では、2012 年の開館以降、この膨大な作品群のアーカイブを行い、コレクション展等を通じてご紹介しています。

本展では、「瓶と魚」というストレートなタイトルのままに、瓶と魚が登場する作品を選びました。どちらも世代を問わず生活に身近なモチーフですが、作品の一つ一つを見ていくと、その親しみやすさゆえに発見できる面白さに満ちています。

みずのき絵画教室では長年にわたって講師による技術指導が行われていたため、習作・本制作問わず静物画がよく描かれてきました。モチーフとして度々用いられた瓶は、構図や曲線、色合いによって印象が全く異なるため、作家の技法の特徴がよく表れています。一方で、魚が描かれた作品は、みる側の想像を掻き立てるものが多く、作品の世界に迷い込んでしまいそうにすらなります。

初夏から晩夏にかけて開催する本展で、さまざまな佇まいで並ぶ瓶と自由に動き回る魚たちとの出会いをお楽しみください。

展示作家

岡本 由加、小笹 逸男、岸ノ上 卓二、高橋 滋、谷尻 美穂子、中原 安見子、二井 貞信、森 昭慈、山崎 孝、山本 悟、吉川 敏明、渡部 恒治

みずのき絵画教室

障害者支援施設みずのきで、入所者を対象に 1964 年に誕生。講師の画家・西垣審一(1912-2000 年)は当初、余暇利用、情操教育等を主とするクラブ活動として考えていたが、入所者の多様な反応や変化の兆しを感じ、その後本格的な美術教育へと転換する。作品は国内の美術公募展で入選を果たした後、1990 年代に日本のアール・ブリュットとして紹介され、国内外から注目を集めた。西垣の逝去後は、名称を「みずのきアトリエ」と変え、新たな絵画プログラムとして取り組まれている。みずのき美術館では、絵画教室で制作された作品約 20,000 点を収蔵、管理している。



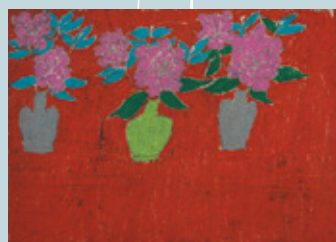
1



2



3



4



5



6



7

1. 作者不明 《ビン》 制作時期不明 2. 岡本 由加 《花》 2000 年 3. 二井 貞信 《花瓶》 制作時期不明 4. 高橋 滋 《花瓶の花》 1970 年頃
5. 吉川 敏明 《魚、バス、船》 1973 年 6. 作者不明 《マルと魚》 制作時期不明 7. 山本 悟 《大魚》 1980 年

【ギャラリーツアー】 展示会をより楽しんでいただけるよう、作品の特徴や見どころついて話しながら展示室を巡ります。

第一回 2024 年 6 月 1 日 (土) 15:00 ~ 16:30

第二回 2024 年 8 月 4 日 (日) 15:00 ~ 16:30

出演 森 太三 (美術家、みずのき美術館インストーラー、みずのきアトリエ講師)
阪本 結 (美術家、みずのき美術館スタッフ)

進行 奥山 理子 (みずのき美術館キュレーター)

開館：金・土・日・祝

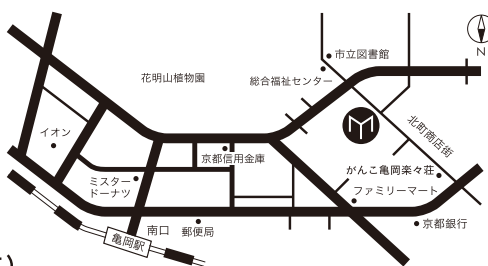
10:00 - 18:00

一般 400 円 / 高大生 200 円

中学生以下無料

障害のある方と介助者 (1 名) 無料

主催：みずのき美術館 (社会福祉法人松花苑)



みずのき美術館



〒621-0861 京都府亀岡市北町18
JR 嵯峨野山陰線「亀岡駅」下車、南口より徒歩約 8 分
TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889
www.mizunoki-museum.org
※ 美術館に駐車場はございませんのでご注意ください